

2021年度
職能委員会
だより

Contents

- P02 合同職能集会・合同職能委員会
P03-04 保健師職能委員会報告
P05-07 助産師職能委員会報告
P08-09 看護職能委員会Ⅰ報告
P10-11 看護職能委員会Ⅱ報告
P12 2022年度職能委員会企画研修

【発行】公益社団法人福岡県看護協会 職能委員会
【発行日】2022年5月31日

〒812-0054
福岡県福岡市東区馬出4-10-1 ナースプラザ福岡
Tel.092-631-1141 <https://www.fukuoka-kango.or.jp/>



令和3年度合同職能集会

家庭に潜む闇 貧困と虐待の連鎖

～子どもを救える社会へ～



オンデマンド配信

講師 北里大学医学部公衆衛生学 可知 悠子氏

企画・運営 助産師職能委員会 視聴者 201名

子どもの7人に1人が貧困状態にあると言われている中、なぜ貧困であることが問題なのか。逆境体験の健康や発達への影響。不利の連鎖を止めるには。など、幼少時の逆境体験が将来の健康や次世代に影響を及ぼす内容が考察されていました。視聴者からは、「社会のひとりひとりが何らかの形で関わる必要性があると思う。負の連鎖が少なくなるように、自分も出来ることを始めたい」「貧困と虐待の連鎖は、どこでその連鎖を断ち切ることができるのか、看護職としてどのように関与し支援の輪を広げることができるのか考える課題を頂きました」と自分の課題に置き換えて考えられた貴重な意見もありました。今後も助産師職能委員は、社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て世代の親を孤立させないよう支えていく地域づくりを目指して発信していきたいと考えています。

令和3年度合同職能委員会



地域包括ケア推進における看護職能間の連携強化に向けて

ハイブリッド開催

日程 令和4年2月19日(土)13:00～15:00 担当 保健師職能委員会

参加者 29名(役員4名、保健師職能委員8名、助産師職能委員5名、看護師職能I委員6名、看護師職能II委員6名)

〈内容〉

2025年問題や2040年問題を見据え、福岡県看護協会では、子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた地域で最期まで望む生活ができるように、地域で支える地域包括ケアシステム実現を重点事業として取り組んで参りました。その中で、関係者間の連携は強化されてきましたが、看護職間の連携はまだ十分とは言えないのが現状であり、これは他の都道府県でも同様の課題となっています。今後、地域で人々の健康と生活を支えていくためには、看護職間の連携強化を推進していく必要があると考えています。

そこで、まずは、職務を相互に理解し、看護職間の連携の現状を踏まえ、連携強化にどう取り組んでいけばよいか考えることを目的に、第1回の合同職能委員会を開催しました。初めに各職能の現状と課題、委員会活動の紹介を行った後、「看護職間の連携について」というテーマで現状について意見交換を行いました。

「退院時の調整をソーシャルワーカーがしているので、看護の情報が十分に伝わらない」との意見に、「組織として、ソーシャルワーカーと看護師が組み、それぞれの強みを生かした退院支援をしている。また、意図的に退院支援の担当者が病棟にいる時間を確保するようにしている」という自施設の取り組みが紹介されました。また、処遇困難事例等、地域に返すときに「地域の誰に繋いだらいいのか、誰を中心に支援していけばよいか分からない」「地域によって行政の取り組みに差がある」等の意見が出されました。また、「介護保険や生活の場である施設のこともっと知ってほしい。それを前提に情報提供してほしい」「施設や訪問看護の現場に研修に来てほしい」等様々な声があがりました。助産師からは、実際に大学病院とクリニックとが交流しているところもあると報告されました。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、Web開催となりましたが、限られた時間で、熱心に意見が出されました。先駆的な取り組みや、それぞれの現状や課題を知ることができ、有意義な時間となりました。

この合同職能委員会を今後も継続していく必要があると出席者一同感じています。次回は、さらにテーマを絞り、具体的な対策を検討し、看護職間の連携強化につながることを期待しています。



保健師職能委員会

はじめに

長期化している新型コロナウイルス感染症対策の最前線で、多くの看護職の皆さまが日々活動していることに、ここから感謝と敬意を申し上げます。保健師職能委員会は、毎月委員会を開催し、日本看護協会、福岡県看護協会の動向や各職場の課題等について意見交換をしながら情報を共有し、活動に取り組んできました。新型コロナウイルスの感染拡大により、委員会の一部はWeb開催となり、計画していた研修会や交流会も次年度に延期となりました。その中で、11月に地域包括ケアシステムをテーマとした研修会及び、2月に第1回の合同職能委員会を開催することができたので報告させていただきます。

委員長 石井 靖子

今日から実践できる!地域包括ケアシステムにおける保健師の役割

日程 令和3年11月13日(土)13:00~16:00

受講者 35名(保健師 17名、看護師 8名、学生10名)

地域包括ケアシステムは高齢者のみならず、子育て世代や障がい者を含むすべての住民を対象とした地域づくりの方策で、看護協会でも重点課題として取り組んでいます。地域の特性や制度を十分把握し、地域の人々や関係する多職種と協働しケア提供の仕組みを構築するためには、つなぎ役・けん引役となる行政保健師の役割が重要です。

そこで、今回の研修会は、高齢者や子育て支援の活動に先進的に取り組んできた保健師の実践活動から、地域包括ケアシステム構築のポイントと保健師の役割を学び、さらに看護職間の連携の推進を図ることを目的としました。

参加者を保健師以外にも拡大したところ、看護師の方々への参加も多く、関心の高さを感じました。また、講師の地域への思いが熱く語られ、看護職間連携の重要性を再確認しました。



講演I

「子育て世代包括支援センターにおける保健師の役割」

講師 あざかみこどもクリニック保健師 香月 眞美先生

長年、市町村保健師として母子保健活動に携わった経験に基づき、子育て世代包括支援センターの保健師の役割について、事例を含めてお話いただきました。

「子育て世代包括支援センター」は、保健師・助産師が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行うワンストップの相談窓口です。児童虐待の発生予防のために設置が法定化され、母子保健施策においても虐待の発生予防の推進が明確化されました。

講演では最初に、ハイリスク者把握の重要性と難しさとして「支援が必要と思われる若年妊婦等は、本人に自覚がなかったり、支援者がいなかったりすることが多い」という話がありました。退院前の会議の開催、産婦人科医と助産師との連絡票や判断基準などの共通ツールの作成、産科と顔の見える連携体制作りが重要と学びました。また、産後ケア事業を利用した親子関係に葛藤を抱える事例への支援では、精神科や小児科医師の介入、スーパーバイズなど連携支援体制の必要性を学びました。そして母親に寄り添い支援するための母子保健推進員が紹介され、地域全体で子育てを支援できるような地域づくりが必要であることを再認識しました。

次に、「赤ちゃん側の育てにくさには様々な問題が隠れている。何が問題なのか専門的な立場で見極め具体的な方法を伝える必要がある」と

お話しされ、困り感に寄り添い小さなことでも手を添える支援、利用者目線で家族が子育ての力をつけられる支援の重要性が伝えられました。

最後に「児童虐待の発生予防は難しいからこそ、顔が見える関係で共感の輪を広げ連携することが必要」と締めくくられました。事例と向き合い、先を見通しながら、行政の強みを生かし、関係者と連携し丁寧に関わることの大切さを痛感しました。



講演Ⅱ

「地域住民や多職種との連携による地域包括ケアシステムの構築」

講師 田川市立病院医療支援センター 副センター長 山口 のり子先生

田川市地域包括支援センターの設置後、地域包括ケアシステムの構築の取り組みについて、段階を追って具体的にお話いただきました。

まず地域包括ケアシステム構築の基盤づくりとして、地域課題を解決し暮らしやすい地域づくりに繋げることができる地域ケア会議設置の取組みについて紹介いただきました。そして生活支援と介護予防を推進するための見守りネットワークづくりやボランティア養成、「通いの場」づくり、みんなで話し合う場「協議体」など、地域住民と連携・協働する活動、在宅医療・介護連携推進のための他職種連携研修や退院時連携会議、ケア・カフェ、在宅ケア座談会などの活動についてお話いただきました。活動の前には様々な方法で地域の課題が明らかにされており、地域の多職種や団体と共に課題把握に取り組むことで顔の見える関係をつくり、連携を強化し、地域づくりへと繋げることの重要性和、現状を踏まえ戦略をたてて取り組んでいくことが保健師の重要な役割であることを学びました。

次に、公立病院が地域包括ケアシステムの構築に向けた役割を果たすた

め、「介護との連携強化」「在宅医療の充実」「予防医療の充実」を事業計画に掲げ、保健師として患者の入退院支援、医療連携室の訪問看護師と共同での施設看取り調査、医療介護連携研修会や市民公開講座の企画実施などに取り組んでいることが紹介されました。



最後に病院でも「現状や調査結果を対話を通して見える化し、企画の段階からみんなで対策を考え、一緒に取り組んでいくことが重要である。そのためには、住民や専門職等と良い関係を築き、共に成長し、推進していくことが必要であり、合意形成、協働が原動力だ」と締めくくられました。長年の活動で、培ってきたパワーを感じました。

講演Ⅲ

地域包括ケアシステムの構築に対する保健師に期待される役割

講師 福岡県立大学 教授 尾形 由起子先生

保健師は地域で暮らしている人からどう生きたいか、声を聴いて実現に向けて活動していくことが重要です。そこで、個の課題を集団から地域へつなげるため、個の課題の共通点から地域の健康課題を導き出し、課題解決に向けて取り組むポイントを、講演ⅠとⅡを踏まえお話いただきました。

「保健師は個からグループ、コミュニティの形成に向けて働きかける必要があります。共感を得ないと一歩前に進まない。個の問題をつなげて面にして山を動かす。事例の目標設定で大事にしなければいけないことは、目の前の人々が幸せになるために、看護の専門職としてアセスメントをすることだ」と話され、「保健師の実践能力の構成は、[基盤となる能力][生活する人の理解と実践能力][コミュニティの理解と支援能力][地域看護管理能力]が必要である」と締めくくられました。

地域ケアシステムの構築も、一人ひとりの問題を丁寧に把握し、それを地域の問題として地域の人々や関係者と共に取り組むことが重要であり、保健師にはその能力が求められることを学びました。



〈 アンケートの意見 〉

- 母子保健について、事例をあげながら説明してくださり、子育て世代包括支援センターにおける妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援、支援の方法、どんな視点をもって対象者をみているのか、保健師の役割についての説明がとても理解しやすかった。
- 保健師という役割が持つ力、個から集団へ働きかける力の底知れないパワーを感じた。地域で暮らす人々と一緒に地域を良くしていく、そのためには現状と課題を見える化し、住民参加型の仕組みを作っていく。また、それが継続、発展していくよう声掛けや助言を行っていくなど保健師は地域を変えていく力をもっていることを再認識できた。
- どのように住民に関わりながら地域づくりを行っているのかわかりやすく、個への支援から地域支援へとつなげていることが理解できた。
- どう住民や多職種にアプローチするかなどがイメージしやすく、目的を明確にし、全体で共通認識とすることの大切さや、多職種・住民を巻き込んだ取り組みの重要性を実感することができた。
- 保健師は住民の方々の希望や望み、様々な思いを見聞かしている職種であるということがとても印象的だった。
- 看護職としての心持や多職種との連携について学ぶことができた。

令和3年度 保健師職能委員会

【委員長】石井靖子(福岡県北筑後保健福祉環境事務所)

【副委員長】山下清香(福岡県立大学)

【委員】稲益布子(久留米市保健所)、賀村悦子(大野城市役所)、
山下珠美(個人会員)、原田めぐみ(北九州市八幡西区役所)、
宮本恵利花(福岡市立こども病院)、
近藤千穂(福岡市中央区保健福祉センター)、
花田美代子(福岡県田川保健福祉事務所)



助産師職能委員会

はじめに

助産師職能委員会では、1.安全安心な出産環境のための人材育成と体制整備の推進 2.子育て世代包括システムにおける看護機能の強化に関する意見集約と課題発見の2項目を令和3年度の目標として研修会・交流会を計画しました。研修を企画した際、一部は集合教育で実施する計画にしていたのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延のためにすべて研修をオンライン研修として開催しました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中で妊産婦の感染も増加傾向です。妊娠期から育児環境まで切れ目のない支援を実施することがより必要とされています。多職種と協働しながら連携を深めたいと思います。

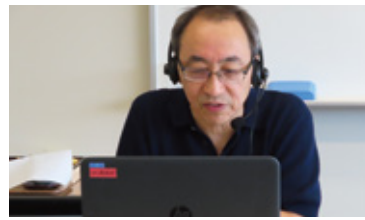
委員長 石田 麗子

新人助産師研修

助産師職能委員会では、平成24年度より助産基礎教育からの継続教育を行い、臨床助産能力を高め助産師の人材育成を行う目的で、新人助産師研修を開催しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症蔓延により研修を中止しましたが、令和3年度は試行錯誤して、すべての研修をリアルタイム型オンライン研修に変更して、10回目の開催ができました。

この研修は新人助産師として必要な専門知識・技術の習得を高め、他施設の助産師と交流を図り、助産師としてのモチベーションを高めることを目標としています。助産師経験3年目以下の新人助産師を対象に、3日間で57名が受講しました。

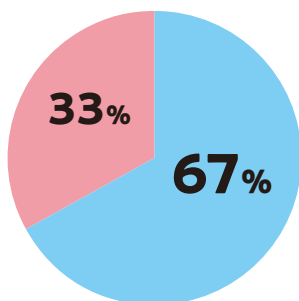
令和4年度は経験豊富な助産師が講師となり、実際に手を添え分娩介助の経験ができる集合研修を含む形式での開催を予定しています。



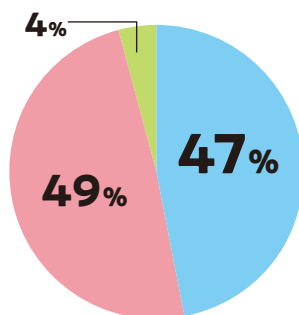
開催日(令和3年度)	研修内容
【1日目】7月24日(土)	①CTG ②母体合併妊娠 ③産科出血
【2日目】8月7日(土)	①周産期のメンタルヘルスケア ②正常分娩の助産診断 ③分娩介助の実際(演習)
【3日目】8月22日(日)	①助産の起源 ②助産倫理・哲学

〈研修終了時アンケート〉

研修の内容について



研修の満足度



■ 期待した内容だった ■ 非常に満足した
■ だいたい期待した内容だった ■ 満足した ■ やや満足



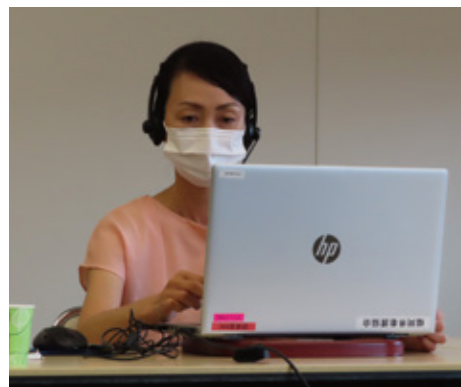
受講生の声

- 助産師を続ける上では学習が必要だと思った
- 改めて助産師という仕事のやりがいや素晴らしさを感じた
- 悩みなどを共有することができた
- スキルアップへのモチベーションとなった



院内スキルアップ研修

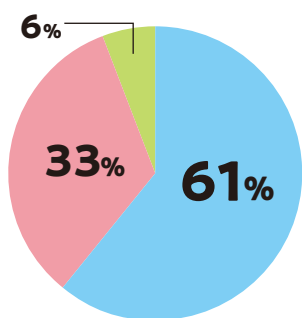
個々の助産師がクリニカルリーダーをステップアップし、助産専門職としての役割を社会に発信できる人材を育成するために、院内助産スキルアップ研修(全3日間)を企画しました。今年度は、リアルタイム型オンラインでの開催となり、18名の方が受講しました。



開催日(令和3年度)	研修内容
【1日目】5月16日(日)	新型コロナウイルス 妊産婦SOS —新型コロナウイルス感染拡大予防下における妊産婦の支援— 助産師出向システムの実例 in福岡 出向元医療機関の立場から／出向先医療機関の立場から
【2日目】5月30日(日)	不妊・不育の悩みをもつ女性への支援 乳腺炎と乳房ケア
【3日目】6月12日(土)	助産師のキャリア開発／助産師のコア・コンピテンシー

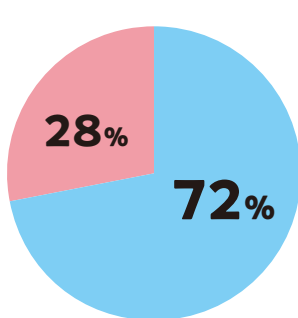
〈研修終了時アンケート結果〉

満足度



■ 大満足
■ 満足 ■ やや満足

役立ち度



■ 強く思う
■ 思う



受講生の声

- 世の中で助産師として何を求められているのか、助産実践能力強化の必要性などを再学習したので、基軸がしっかりしたように思えた
- 産科医が減少していく今、専門知識をもつ助産師の役割は大きいと感じました。生涯学び続け、妊産婦や赤ちゃんが安心して出産や成長していけるよう質の高いケアを提供していかなければいけないと感じた
- 助産師に求められる基本は変わらないが、求められている事一つに特化して役割を担っていくことで助産師の技の質の向上にもつながっていくことや現代社会での求められること、役割についても再認識する機会となった



産科管理者交流会

産科管理者交流会は、管理実践能力を高めることにより、人材育成や助産能力の維持・向上を図ること、また、情報交換・情報共有を行うことで周産期のネットワークを構築することを目的としています。今年度は、地域における危機管理体制の強化、助産師を取り巻く状況や求められる課題について共有し、助産師の発展に向けた活動について考えることにより、交流を深めました。

災害時に職員を守るマネジメント～コロナ禍を通して～

担当 田中産婦人科クリニック 石田 麗子 日程 令和3年9月26日(日)13:00～16:00

開催方法 オンライン

受講者 11名

参加者は総合病院から8名、クリニックから3名の計11名であり、職位は師長6名(54.5%)、副師長1名(9.1%)、主任3名(27.3%)、看護部長1名(9.1%)でした。

参加者の声として、「コロナ禍で各施設での対応を知ることができた」「コロナ禍等の危機的状況下においては、管理者視点だけでなく、実務に携わるスタッフが中心となって業務基準・手順を検討する必要があると感じた」「他の病院の情報が得られた」「顔が見える関係づくりができた」「各施設の現状・取り組みについて知ることができた」「看護協会や県、国の動向について知ることができた」「管理者間でなければ聞けないこともあるので、有意義であった」などが挙げられた一方、「もう少し人数がいたら良かった」「交流会の時間が短かった」などの意見が寄せられました。

今後の課題として、助産師出向システムの活性化、対人関係の調整・人材育成、特定妊婦支援における地域連携の必要性が挙げられました。このことから、令和4年度は「困難を抱える母子とその家族のための地域包括ケア」をテーマにシンポジウムを開催する予定です。



学会発表

- ①第62回日本母性衛生学会総会・学術集会 オンライン開催 令和3年10月15日・16日
第1回WHC～不妊治療とその後の妊産婦ケアの実践～実践報告
- ②第29回福岡母性衛生学会 オンライン開催 令和3年7月4日
分娩取扱施設における母子支援の連携と協働に関する実態調査-福岡県の現状と課題-



おわりに

私たち助産師には、すべての妊産婦に「助産師によるケア」を届けることが期待されています。しかし現在、産科関連病棟の混合化に加え、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、妊産婦は妊娠期から子育て期にかけて、様々な不安や負担を抱え孤立化しています。

現在のコロナ禍での状態、また少子化・ハイリスク妊産婦が増加している中で母子支援のためには、妊娠期から産褥期、地域に戻ってまでの支援として、地域連携を行う中で妊娠期を過ごしていただき、分娩取り扱い施設で出産をし、産後ケアが必要な褥婦は安心して産後ケアを受けることができる。そのような体制を構築していく必要があります。

日本看護協会では、①院内助産・助産師外来②産科関連病棟におけるユニットマネジメント③医療機関における産後ケア事業④地域連携の4つの機能を持つ「母子のための地域包括ケア病棟」の推進を行っています。開設を促進するために、2021年11月に『「母子のための地域包括ケア病棟」推進に向けた手引き』の作成と配布が行われました。分娩取扱機関が「母子のための地域包括ケア病棟」の開設・運営に向けて、助産師等の看護職の力を発揮し、地域や医療機関の実情に応じた妊産婦への支援体制を整えるための手引きです。日本看護協会公式ホームページ、キャリアースにも掲載されています。

現在のところ九州・沖縄地区において「母子のための地域包括ケア病棟」は開設されていません。開設が進まない理由の中に、助産師の実践能力不足感が挙げられています。まずは、助産師一人ひとりが「母子のための地域包括ケア病棟」開設の意味を理解していくことが必要だと考えます。そこで『「母子のための地域包括ケア病棟」推進に向けた手引き』を手に取り、閲覧してほしいと思います。この情報提供が、助産師として母子のために何ができるのかを考える機会にさせていただけると幸いです。

「母子のための地域包括ケア病棟」推進に向けた手引き



院内助産・助産師外来ガイドライン



令和3年度 助産師職能委員会

【委員長】石田麗子(田中産婦人科クリニック)

【副委員長】金子仁美(聖マリア病院)

【委員】飯島紀子(飯塚病院)、姫野たまみ(福岡市東区保健福祉センター)、藤木久美子(国際医療福祉大学大学院)、坪根友子(福岡市立こども病院)、山下瑞木(福岡徳洲会病院)、下川友紀(公立八女総合病院)、川畑あゆみ(産業医科大学病院)



看護師職能委員会 I



はじめに

看護師職能委員会Iでは、福岡県看護協会の動向と重点事業の活動を委員間で情報共有し、病院で働く看護師・准看護師の課題解決に繋がるように、毎月委員会を開催し、企画・運営に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大から3年目となり、未だ収束の見通しが立たない状況で会員の皆様も大変ご苦労されていることと存じます。本年度は、感染拡大状況に合わせて、一部研修時期を変更し、参加人数の制限や感染対策を取りながら予定した事業を実施することができました。

特定行為看護師研修制度について

- 開催日** 令和3年9月15日(水) **参加者** 38名
- テーマ** 日本看護協会における特定行為研修について
- 講師** 日本看護協会常任理事 木澤 晃代先生
- 実践報告** 「特定行為研修受講の動機と活動の実際」
福岡赤十字病院 看護係長 集中ケア認定看護師 寺田 昌弘先生
済生会福岡総合病院 感染管理認定看護師 末永 健二先生



日本看護協会理事より、新たな認定看護師制度への移行と移行支援をテーマに、「なぜ、特定行為研修が必要か」「特定行為研修修了者は何をもち得るのか」「今、身近にある課題解決に向けて」の講演がありました。その後、研修修了者2名から受講動機、活動の実際について報告していただきました。会場の看護管理者からは施設での支援方法についての質問、これから特定行為研修を受講したいと考えている看護職からは実際の特定行為についての具体的な質問があり、有意義な意見交換の場となりました。今後も現場の看護の質の向上を目指し、特定行為看護師研修を継続していきたいと思っております。

准看護師の進学支援と看護実践研修会

- 開催日** 令和3年10月30日(土) **参加者** 10名
- テーマ** SBARで行う患者情報報告
- 講師** 福岡大学筑紫病院 主任看護師 集中ケア認定看護師 林 晶先生
- テーマ** 准看護師の進学支援
- 講師** 専門学校麻生看護大学校 看護通信課程 高橋 洋子先生

研修講義

今回は、「SBARで行う患者情報報告」について研修を行って頂きました。事例を用いてアセスメントを行い、医師役の講師にSBARを用いて報告するという参加型の研修でした。

参加者からは、「報告の仕方に自信がなく悩んでいたが、今回の研修で勉強したことを実践していきたい」「相手に分かりやすく、また簡潔に伝えることができるように日頃より使っていきたい」などの声が聞かれ、アセスメント力を上げる学びとなったようです。

進学説明会

通信制学校の特徴や学習方法などの説明があり、参加者からは「進学を検討しているため、良い刺激になり気持ちが高まった」「具体的な内容を知ることができ、役に立った」などの意見が聞かれました。



「新型コロナウイルス感染症対応における看護管理上の課題 ～受け入れ施設のさまざまなアジェンダを語りましょう～」

開催日 令和3年11月6日(土) 参加者 看護管理者など 44名

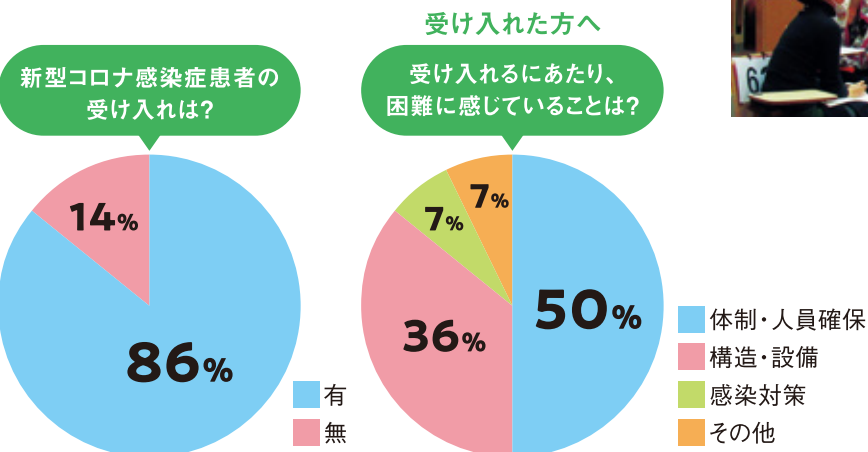
講師 福岡大学病院副病院長・看護部長 中川 朋子先生
夫婦石病院看護副部長 後藤 裕子先生

福岡市民病院看護部長 田邊 郁子先生

福岡大学筑紫病院看護部長 樋口 靖子先生

看護管理者は、未曾有の新型コロナウイルス感染症患者に対して情報交換を行う場が少ない中で奮闘してきました。そこで、今回、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた現状や経過、看護管理者としての課題を発表する機会を企画いたしました。主な内容は、「大病院でのECMOセンターの立ち上げや看護管理者のマネジメント力を発揮したプロセス」「コロナ受入病院でフェーズが急速に変化する中、患者の増加とともに組織を変化させたプロセスや看護管理者としての発信力」「中小病院での院内クラスター発生時の対応やその後に振り返りを行う重要性」「コロナ受入病院でどのように寄り添う看護を実践したか等、具体的な看護実践やメンタルサポートの重要性」と、各々の看護管理者の在り方を学ぶことが出来ました。講演後、参加者した看護管理者間でグループワークを行い、各施設の現状と課題について意見交換を行いました。

研修終了後のアンケートでは「看護管理者としてビジョンを明確に発信し、組織化することの重要性を実感した」「他施設の取り組みを聞き、第6波の準備のヒントになった」「今後もコロナ対策について継続してほしい」などの意見が多く聞かれ、有益な意見交換の場となりました。今後も看護管理者が語る企画を提供したいと考えています。



委員長
挨拶

病院で勤務する私たちは日常生活の自粛を続けながら、医療の最前線でコロナ対応と一般診療機能の維持に努め、地域医療を守るために日々努力を続けております。看護職の頑張りは国民の皆様にもしっかり伝わり、今日では多くの励ましの声も頂いております。一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、穏やかな日常に戻ること願っております。

来年度も皆様にとってタイムリーな情報が提供できる事業を企画していきたいと考えております。

委員長 松永由紀子

令和3年度 看護師職能委員会I

【委員長】松永由紀子(福岡赤十字病院)

【副委員長】樋口靖子(福岡大学筑紫病院)、大松真弓(産業医科大学病院)

【委員】荒木頼子(済生会飯塚嘉穂病院)、後藤裕子(夫婦石病院)、佐伯美穂子(白十字病院)、白石由紀(JCHO九州病院)、田中健一(敬天会東和病院)、的野修一(栄光会栄光病院)、宮村聡美(健和会大手町病院)、森トシ子(田主丸中央病院)

【担当理事】刈茅毅英(新古賀病院)



看護師職能委員会Ⅱ

高齢者と地域のために働くナースたちの看護師職能委員会Ⅱ

～ひとりではない つながろう 広げよう 高めよう～

看護師職能委員会Ⅱでは、令和3年度も在宅・介護分野で働く看護師の教育の充実、管理者の組織マネジメント能力の向上、在宅・施設での看取りの推進という目標に添って、「在宅・施設看取り研修」「在宅・施設管理者研修」の二つの研修を企画・実施しました。コロナ禍が続く中、参集しての研修の実施は厳しく、看取り研修は完全オンライン(グループワークも)で行い、管理者研修は東京の講師にオンラインで講演していただき、グループワークは交流の機会のために参集して工夫しながら対面で実施できました。いろいろ試行錯誤しながら、工夫できることは行い、コロナ対策2年目、昨年よりは少しは改善できたかと思いつながりながら、やはり大変な1年となりました。それでも何とか実施す

ることができたのは会員の皆様のおかげだと思っています。

令和4年度はハラスメントの対応に関する取り組みに加え、コロナ感染拡大のため令和3年度計画の中で実施できなかった会員拡大を目指し皆様の声を直接聞くため施設に出向いて交流させていただく企画をぜひ実現させたいと思っています。

令和3年度の取り組みの内容を報告させていただきますので、令和4年度もぜひ研修会に参加してください。一日も早くコロナ感染が落ち着き、普通の日常が戻ってきて、皆様が安全に過ごせることを願っています。

委員長 宮田 真由美

在宅・施設看取り研修

開催日 令和3年9月11日(土) 参加者 76名(ZOOMによるオンライン研修)

1部は、日本赤十字九州国際看護大学 西尾美登里先生に、①近年における当研修への参加者の動向②社会構造の変化③医師の教育における変革④多職種における看取りについて⑤在宅医療について講演をしていただきました。そして模擬療養者家族による事例の語りを通してグループディスカッションを行いました。2部は「連携について困っていること望むこと。施設・病院から自宅に帰るために必要な連携」というテーマでグループワークを実施しました。

アンケート結果では研修に対する全体の満足度は高く、特にグループワークの満足度が高かったです。オンライン研修は「コロナ禍で助かる」「対面より緊張せず意見が述べやすかった」という意見の方が多かったですが、一部「対面でもっと意見を聞きたかった」という声もありました。ただ、「時間が短かった」という意見も多く、次年度はもう少しグループワークの時間を確保する工夫が必要であることと、Zoomでのグループワークに慣れていない研修参加者に向けたサポートがもっと必要だったことが反省点です。

講演とグループワークを通して、「訪問看護師になって経験が浅く連携方法などうまくいかないことも多い中、今回の研修で他事業所の意見が聞いて参考になった」「施設内だけではわからなかったこと、大変なことが情報共有できて良かった」「いろいろな取り組みや資源を利用することが可能であることがわかった」「病院から在宅へ帰るには早めの情報共有や情報収集、また多職種との連携が大切と感じた」「自分たちが行っていることを肯定的にとらえることもできた」「看取りはみんなで本人や家族を支えていくことが大切だと改めて再認識できた」等の感想が寄せられました。

今回、改めて「施設看取りのあれこれ」の冊子について説明を行ったところ、「なるほどと思え勉強になった」とのコメントをいただくことができましたので、今後も活用を促していきたいと思います。

研修の要望について「在宅医療についてもっと知りたい」という意見も多く、次年度は、在宅医療に精通した医師からの講演を企画したいと考えています。



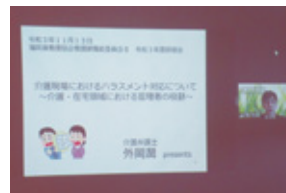
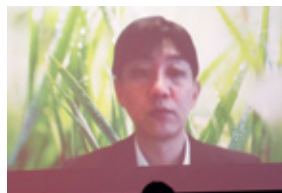
在宅・施設管理者交流会

開催日 令和3年11月13日(土) 参加者 36名(講演はリモート)

患者や利用者・家族からのハラスメントに対し、法的にどの様に対応したらよいのか、パワハラで心掛けておかねばならないことなどを、介護・福祉系法律事務所おかげさまの外岡潤介護弁護士に「介護現場におけるハラスメント対応について～介護・在宅領域における管理者の役割～」をテーマに講演をしていただきました。主に「カスタマーハラスメントとは(法的な定義なし)」「日常的なハラスメント対処の流れ」「パワーハラスメントとは」等について、事例や法令を交えてわかりやすくお話していただきました。①雇用主である法人は職員に対して「安全配慮義務」(労働契約法第5条)を負う②基本指針をはっきりさせ、現場職員や施設単位でも問題を抱え込まず、トラブル・クレーム対応の切り札としてコンプライアンスを使う③日常的なハラスメント対処の流れとしては、実態把握に努める④当該職員を孤立させない⑤法令順守「制度」を示し、ダメなものはダメという姿勢で臨む⑥客観的に具体的な証拠(記録)を残す⑦契約解除となる根拠を契約書の中に盛り込んでおくこと等、具体的な内容を理解することができました。実際

の現場の中でとても参考になる講演でした。トラブルになりそうな時、不安な時は、弁護士に相談をという言葉にも力をいただきました。

今回の研修で、管理者としてのハラスメントへの心構えやリスク管理など事前に準備しておかなくてはならないことを学び、事前準備を整えることで解決策を見出すことができると理解することができました。受講者からも「ハラスメント解決にコンプライアンスの活用が有効であることや、具体的な判例を知る事ができて良かった」というご意見をいただくことができました。反省点として、アンケート回収率が低く、アンケート記入時間を確保する工夫や未回答が多いところに関しては自由記載欄を設けるなど記入しやすい形式に修正する必要があること。次にグループワークで他の施設の方ともっと意見交換や交流が良かったが、時間が短すぎたとの意見があり、今後の研修時間の見直しの検討も必要と感じました。次年度は管理者が元気の出るような職場づくりに関する研修が企画できればと考えています。



トピックス

当委員会が発行している「施設看取りのあれこれ」の冊子を活用した看取りケアに関する講演の依頼を受け、令和4年1月に実施させていただく予定で準備を進めていました。しかし、新型コロナウイルス感染の拡大により、止むを得ず中止となりました。仕方ないのですがとても残念でした。在宅看取りの推進のための一助になればうれしいので、またお声がかかれればお話に伺いたいと思っています。

令和3年度 看護師職能委員会Ⅱ

【委員長】 宮田真由美(社会医療法人親仁会ケアプランセンター)

【副委員長】 高岸珠美(介護老人保健施設西寿)

【委員】 深山加寿代(介護老人保健施設ヴィラくしはら)、
下口真由子(暖家の丘訪問看護ステーション)、
西尾美登里(日本赤十字九州国際看護大学)、
福田和枝(特別養護老人ホームいちご)、
久保山さゆり(特別養護老人ホーム水月吉井)、
高島幸子(介護老人保健施設さざり浜江苑)、
木村みどり(福岡県粕屋保健福祉事務所)



令和4年度職能委員会企画研修・交流会

研修番号	研修・交流会名	開催期間	内容等	応募要件 注意事項	応募期間
067	NEW 企業の健康づくり 戦略からみる 健康なまちづくり戦略	11/12(土)午後	内容 産業保健師としての実績を踏まえた企業における健康づくり戦略と健康な地域づくり戦略について 定員 60名 受講料 会員2,090円 非会員3,080円	保健師	8/5(金) ～ 10/6(木)
—	NEW 新型コロナウイルス 感染症等業務に係る IHEAT研修【県委託】	8/6(土)	内容 保健所への業務支援を円滑に行えるように、新型コロナウイルス感染症に関して最新の科学的知見に基づいた知識や技術を習得する 定員 100名 ※詳しくはホームページをご覧ください。		
001	院内助産 スキルアップ研修	[1日目] 5/15(日) [2日目] 5/29(日) [3日目] 6/11(土)	内容 助産師出向システム／地域包括ケアシステム／産後ケア／プレコンセプションケア／助産師のコア・コンピテンシー／助産師のキャリア開発 定員 40名 受講料 会員12,210円 非会員30,690円	助産師経験 3年以上の者 ※オンライン研修	3/16(水) ～ 4/14(木)
010	新人助産師研修	[1日目] 7/16(土) [2日目] 7/30(土) [3日目] 8/20(土) [4日目] 9/3(土)	内容 CTG／母体合併症／産科出血／新生児のフィジカルアセスメント・乳房管理／授乳に関して／正常分娩助産診断・分娩介助演習／助産の起源・助産倫理・助産哲学 定員 40名 受講料 会員16,280円 非会員40,920円	助産師経験 3年目までの者 ※1・4日目: オンライン研修 2・3日目: 集合研修	5/12(木) ～ 6/13(月)
066	産科管理者交流会	8/28(日)午後	内容 災害下(コロナ禍など)における看護管理について 定員 40名 受講料 会員2,090円 非会員3,080円	産科管理を 実践している 助産師・看護師 ※オンライン研修	5/24(火) ～ 7/22(金)
049	NEW 母子とその家族の ための地域包括ケア	11/19(土)午後	内容 困難を抱える母子とその家族のための地域包括ケア 定員 40名 受講料 会員2,090円 非会員5,060円 学生1,000円		8/16(火) ～ 10/12(水)
015	看護実践 ユマニチュード研修／ 准看護師の進学支援	7/30(土)午後	内容 ユマニチュードを学び看護実践に活かす／准看護師進学支援 定員 100名 受講料 会員2,090円 非会員5,060円		4/18(月) ～ 6/17(金)
024	特定行為研修	9/10(土)午後	内容 特定行為研修修了者の実践報告／医師の立場からみた特定行為研修制度 定員 55名 受講料 会員2,090円 非会員5,060円		6/13(月) ～ 8/12(金)
041	看護管理者研修 及び交流会	11/5(土)午後	内容 地域包括ケア推進に向けた外来看護師の役割発揮／多職種とのタスクシェア、タスクシフト実践報告／意見交換会 定員 85名 受講料 会員2,090円 非会員5,060円	主任以上の 看護管理者	8/8(月) ～ 10/7(金)
025	在宅・施設看取り研修	9/10(土)午後	内容 在宅での看取りに関わる看護職間の情報共有、連携の推進 定員 100名 受講料 会員・非会員990円	在宅・介護施設・ 診療所に 勤務する者	6/20(月) ～ 8/17(水)
044	在宅・施設管理者 研修会	11/12(土)午後	内容 在宅・施設管理者のマネジメント力向上(活気ある職場づくりについて) 定員 50名 受講料 会員・非会員990円	在宅・介護施設・ 診療所の 看護管理者・ リーダー等	8/1(月) ～ 10/5(水)

令和4年度 福岡県看護協会 合同職能集会

■テーマ：働き続けられるためのメンタルサポート～自分らしく働くためのコツ～

■講師：上谷 実礼 先生(産業医／公認心理師／心理学講師)

■日時：令和4年6月22日(水)16:25～17:30

■会場：福岡サンパレス・コンサートホール(福岡県福岡市博多区築港本町2-1) 福岡県看護協会通常総会後、同会場にて行います。

※参加申込はホームページをご覧ください。

研修の開催状況は随時更新しておりますので、福岡県看護協会ウェブサイトをご確認ください。 <https://fukuoka-kango.or.jp/>

